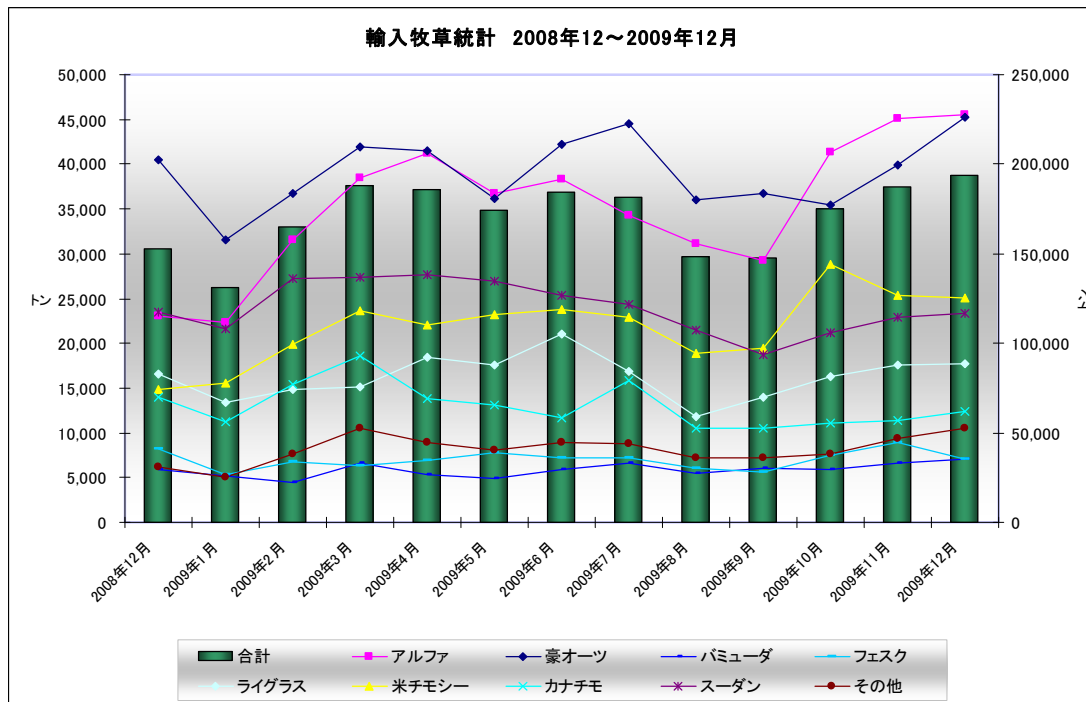


輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

日本輸入統計



上記グラフは、09年12月までの輸入統計です。08年12月は152,640トンに対して09年12月は194,006トンと、前年対比で27%増となりました。

特記事項としては、前年対比でアルファルファハイが97%増の45,473トン、US産チモシーが69%増の25,110トンと、08年産の価格が異常に高いために大幅に落ち込んだ需要が戻ったものと考えられます。一方で、フェスクとカナダ産チモシーは、09年産の生産量減少の影響を受けて、それぞれ前年対比で14%減の7,092トン、11%減の12,412トンと減少しています。

北米コンテナ船フレート

先月既報の通り、2月15日から、12月と同様にGRI (General Rate Increase: 基礎レート) の\$150 (LA/LB港は\$100) 値上げが各船会社で実施される予定です。各船会社とも世界的な不況を背景に経営悪化が続いている

ため、今後も定期航路の削減、船会社同士での共同運航による限られたスペースの共有化などで合理化を進めているため、船腹のタイト感が続く見込みです。また、コンテナの確保も難しく、ハイキューブコンテナ（高さ9.6フィート＝約2.9m）だけではなく、スタンダードコンテナ（高さ8.6フィート＝約2.6m）の不足も続く見込みです。

ビートパルプ

<米国産>

今年は9月1週目の収穫開始から降雨が多く、収穫作業の中断を余儀なくされた圃場が多かったことと、寒波の到来が例年より早く一部圃場ではビート大根が凍結してしまい、収穫を断念せざるを得なかったことから、収量は予想より大きく下回る見込みです。中国産の供給不安から韓国の引合いは非常に強いようですが、追加需要に対しては供給制限をせざるを得ないほど、在庫は少なくなっている模様です。

中西部での大寒波は、ビートパルプの輸送にも大きな影響を及ぼしています。今後の日本および韓国向けの出荷に、大きな遅れが発生する可能性もあります。

<中国産>

中国産ビートパルプの09年産については、作付面積が減少し、悪天候続きにより収量も減少しているため、一部では前年対比で収量が約60%減少している、との情報もあります。中国国内の需要も増加傾向にあり、供給余力は限定的なものになると予想されています。

1月上旬に中国、韓国を襲った大寒波は、中国産ビートパルプの輸送にも大きな影響を及ぼしています。産地から輸出港までの輸送が一時休止されたほか、主力の大連港では凍結のため、ビートパルプの輸送に使用される小型船の運航にも大きな支障があった模様です。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

輸出向けの需要は強く、供給がタイトな状況が続いています。特に3タイププレミアム品への需要が強く、ほぼ完売の状況です。一方でBIGベールのローグレード品については、在庫に若干余裕がある模様です。

10年産のアルファルファ作付面積については、チモシーなどの作物への転作を検討する生産農家もいるため、5%程度の減少が予想されています。

<カリフォルニア産>

需要の中心は韓国・UAE向けで、船積みも若干落ち着いてきたようですが、産地在庫はほぼ完売の状況です。

インペリアルバレーでは、10年産のアルファルファ作付面積については1/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比104%の134,118エーカーとなっています。今後も安定的な需要が期待されているため、生産農家の作付け意欲は高まることが予想されています。

チモシー

<米国産>

ハイグレード品（馬用・牛用プレミアム品）の引合いは強く、現時点では完売で追加での買付けは厳しい状況です。当初は牛用プレミアム品までが強い引合いとなっていました。買付けできないハイグレード品と生産量が減少したカナダ産の代替需要が1番刈のスタンダード品まで広がったため、同グレードの引合いも強まり、1番刈は全てのグレードでほぼ完売の状況です。

順調な需要と船積みを受けて、生産農家が満足できる価格で推移していることから、10年産のチモシー作付面積については、10%程度の増加が予想されています。



コロンビアベースン 新穀に備えるチモシーの圃場

<カナダ産>

生産農家の在庫もほぼ無くなり、完売の状況です。日本やカナダ国内からの需要が強く、出荷が順調な一方で、生産量が少なすぎるために、工場の稼働を一時停止しているサプライヤーも出てきている模様です。

スーダン

インペリアルバレー産は、莖太や茶葉が多いローグレード品については若干余裕があるものの、莖細のプレミアム品およびライトカラー品については生産量が大幅に減少したため、完売の状況です。小麦の相場価格が低迷しているため、10年産のスーダン作付面積については、増加することが予想されています。

1月18日の週に、インペリアルバレーでは数日間に渡って、まとまった降雨に見舞われました。各サプライヤーでのプレス作業の遅れや、在庫品へのダメージが懸念されています。



1月中旬 豪雨の影響を受けたサプライヤー敷地内

北カリフォルニア産は、ハイグレード品を中心に完売の状況です。小麦など他の農産物の相場価格が不安定なことから、10年産のスーダン作付面積については、増加することが予想されています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

クレイングラスの船積みも順調に推移しています。インペリアルバレーでは、10年産のクレイングラス作付面積については1/15時点でのエーカーレジレポートによると、前年対比86%の12,367エーカーとなっています。

バミューダ

バミューダヘイは、ローグレード品は荷動きが若干悪く、プレミアム品を中心に順調に船積みがされているようです。バミューダストローは、ライグラス、フェスキューの値上げの影響で、引合いが増え始めていましたが、豪州産オーツヘイのローグレード品や中国産稲ワラとの競合から、荷動きは悪くなってきた模様です。

ストロー類

09年産のストロー類は、ライグラス、フェスキューともに刈取り後に多くの圃

場で雨あたりとなり、良品の確保が難しくなっている模様です。値上げ一辺倒の産地価格の影響で、豪州産オーツハイのローグレード品や中国産稲ワラへの需要の移行もあり、日本向けの荷動きはここにきて悪くなってきた模様です。需要減にともない価格は下がる、と例年ならば予想されますが、10年産のストローは大幅な減産が予想されているため、生産農家は引続き強気で、産地価格は堅調に推移したままとなっています。

豪州産オーツハイ

主要な産地での09年産の生産は終了しました。各産地とも、播種前後と生育期に適度の降雨があったことでオーツハイの成長は良く、単収は例年以上となっています。そのため生産量は前年対比で10%以上の増加と見込まれています。

品質については、刈取期に降雨があったため、各産地とも雨あたり被害を受けてしまいました。またこの雨を避けるために刈遅れとなった圃場もあり、見た目が良好でも分析値がさほど良くないものも出ているため、様々なグレードのオーツハイが発生している模様です。

以 上